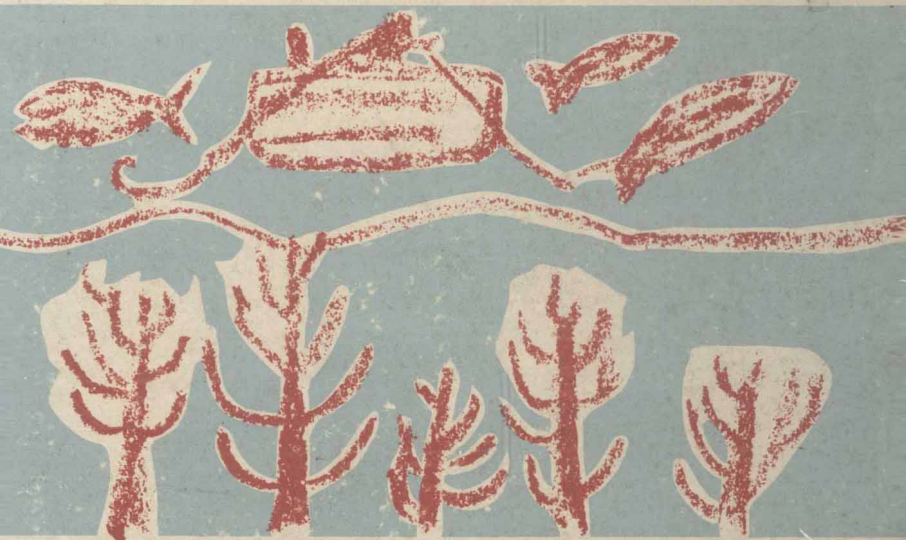


ラジオ小劇場脚本選集

附 最近アメリカの
ラジオ・ドラマ展望



第二集

日本放送協会編

日本放送協會編

ラジオ小劇場脚本選集

第 2 集



寶文館刊行

ラジオ小劇場脚本選集
第 2 集

昭和二十五年六月一日
昭和二十五年六月五日
昭和二十九年九月三日
印刷
發行
三版發行

(定價百五十圓)

編者 日本放送協會

發行者 寶文館

代表者 大葉久治

東京都千代田區神田錦町三ノ二

印刷者 早坂善太郎

東京都新宿區山吹三二

印刷所 三惠社印刷所

東京都新區山吹町三二

東京都千代田區神田錦町三ノ二〇

發行所 株式會社寶文館

振替口座・東京二八〇番

製本・大光堂製本所

序

日々に新たな創造的機能を發揮しつつあるラジオの、機械の示す眞實を追求し、表現力の限界をおし擴げ、演劇的必然性をよりよく描き出す爲に、特に設けられた「ラジオ小劇場」の時間も漸く第三年目を迎え、その第二年目の成果が、こゝに集められたことはよろこびにたえない。

何人かのオリジナル・ラジオ・アーティストがこの時間から生れ、いくつかの新しい試みが、ラジオ演劇によき示唆を與え、新人の作劇意欲を刺戟して來たことは言うまでもない。

更に、これらの作品を基盤として、ドラマのルネッサンスをもたらすこの近代藝術の使命が、日と共に堅實に果されて行くことを、私は心から祈つてやまない。

一九五〇年五月

日本放送協會常務理事

編成局長

南 江 治 郎

目次

序	………	南江治郎
春への憧れ	………	野上彰一
都會の幸福	………	伊馬春部七
結婚の前夜	………	梅田春夫三
知子	………	三浦則夫雪
陳述	………	西澤揚太郎亮
笠地藏	………	宇野信夫全
すみだ川	………	田中澄江九

かしら文字……………佐々木 惠美子・二三

郭 公……………近 藤 若 菜・二三

道子の周囲……………内 村 直 也・二四

黒百合夫人……………菊 田 一 夫・二五

* 各脚本解説……………堀 江 史 朗

* ラジオ・ドラマ用語……………

* 放送一覽表……………三七

最近アメリカのラジオ・ドラマ展望……………堀 江 史 朗・二七

あとがき……………杉 本 亀 一・三三

装幀・飾繪……鐵 指 公 藏

春への憧れ

野上

彰

配役

長澤和子	加藤道子
山本眞喜子	尾崎勝子
母	綱島初子
マリエ	鎌田彌恵
祖父	山田清
藤井	須永宏

音楽	紙恭輔
演出	國友正己

(昭和二十四年三月十六日放送)



効果 風の音……窓を閉める音。

和子

(アルトの聲) おお寒い……雪が降りそうな冷めたさ……さすがに高原の秋だわ……眞喜ちゃん、いまごろどうしたかしら。寒がりん坊だから……(ふふと笑う) それとも明後日の獨唱會のおけいこかな……この手紙が着いたらきつとびつくりするわ……思い切つて秋から冬の輕井澤へ、和子が来ようなんて想像もしないわ……なにしろ……

効果 風の音、しだいに、UP

私……自分でさえ、考えてもいなかったことなのだから……藤井さん、遅いわね……もう一度、手紙を讀

みかえしてみよう……

親愛なブリマドンナ 山本眞喜子様

輕井澤にて 長澤和子……

私達が子供のとき、いつしよにかくれん坊をした山小屋からこの手紙をさし上げます……昨日まで、東京にいて來年の春の獨唱會に歌つて頂く詩の作曲をしようと思つていましたが……急に、高原の空氣がなつかしく、今朝一番で上野を立つて、こゝへまいりました……十一月の高原はまだ、雪は降り積もつてはいませんけれど……今宵は月の明るい夜……風が白樺と落葉松のとげとげした枝を寒々と吹いています……やつとこの部屋だけ掃除をすませると人氣のないがらんとした二階で、オーバの隣を立てています……もうすぐこの別荘の管理をしている藤井さんが、ストウヴやさんを連れて来てくれるでしょう……十一月の高原でふるえている和子を御想像下さい。

音楽 1 (和子を表現する旋律) 手紙の途中から、

S・I……UP……F・O・

効果 風の音……戸を叩く音。

男 A (低いしやがれた聲、マイク・オフ) こんばんは……
和子 はい——ただいま。

効果 階段をかけ下りる音。戸を開ける音……靴音。

男 A 遅くなりました……長澤さんのお家はここですね。
和子 ええ……ストウヴやさんでしょう……藤井さんは？
男 A いま、すぐ後から來ます。

効果 自轉車のベルの音。

男 A ああ來られました。

藤井 お嬢さん……遅くなりました。君、煙突持つて來た

かい？

男 A へえ……

和子 ともかく早く取りつけてよ……寒くてしかたがない
わ。

効果 床を踏む靴音。

藤井 えらいほこりですね……明日の朝掃除をさせましょ
う。

効果 階段を上る音。

藤井 お嬢さん……大丈夫ですか……こんなところでお一
入で、

和子 平氣よ。

男 A この部屋ですか？

和子 そうよ。

藤井 まきは？

和子 ホールにあるわ。

藤井 じゃ、すこし、持つて來ておきましょう。

効果 階段を降りる音。ストウヴを取りつける音。

和子 (小聲で、ロンドンデリイ・エアを歌う) おぼろに
みなぎる春の小川の夜の月に、散りゆくりんごの淡く
かぼそき花よ、そぞろに……ゆきにし黒きひとみよ、
やさしきわが友よ。

男 A お嬢さん、出來ました。

効果 階段を登る重い足音。

藤井 どつこいしよ……やあ、もう出來たのか……早いね、
男 A ええ……

藤井 それじゃ私がもしてあげましょう。

効果 紙や小枝をストウヴに入れる音。マッチをす
る音。火の燃える音。

男 A 調子はいいようですね。

藤井 うん、その細いまきをとつてくれ、

男 A へい。

効果 まきのごろごろと燃える音。

和子 やつと暖くなつて来たわ。

藤井 それじゃ、お嬢さん、べつに御用は、

和子 こんやは、もう遅いからいいわ……

藤井 じゃ、おやすみなさい。

和子 ごくろうさま。

効果 階段を下りる靴音。ホールを踏む靴音。遠ざ
かる。(オフ・マイクで)戸を開ける音。

和子 ああ、やつとひとりになつたわ……美しい月……白
樺があんなに月の光にそよいでいる。

音楽 1 の旋律始まり、次のせりふの下に流れる。

……私は暖かくなつて来たストウヴにあたりながら

東京にいるあなたにあててこの手紙を書いています……
いまは疲れてへとへとです……それでも、心は澄み
きつています……あなたの華やかな獨唱會の夢でも見
ながらベッドにもぐりこむことにして……明日からも
うれつに仕事です……さよなら……

音楽 2 ハモンドオルガン。

効果 明るい小鳥の聲、F・I・

音楽 1 の旋律、F・I・

和子 輕井澤から東京へ第二の手紙、

親愛な山本眞喜子様へ

和子より……

一月近くも沈黙していてごめんなさい……山にいる
と時間の觀念がなくなつて来て……それにこのごろは
ずうつと……ひどい吹雪が続いて、やつとお天氣にな
つたかと思うと風邪を引いて……くさつています……
仕事ははかどらないし……いつそ思い切つて歸ろうか
と、今朝荷造りをしてはんやり窓から、表の深い雪の
道を眺めているとき……

音楽3 (マイク・オフ) ウエルナアの野ばらの歌

S・I・

遠くの道から、ウエルナアの野ばらの歌がかすかに
聞えて来ました……美しいアルトです……私は思わず
息をのみました……家の前の小道は驛前のミルクやさ
んに續いているのでいつも朝になるとたくさんの人が
ミルクを買いに通るのです。

音楽3 近くなる。

歌聲が近ずいて来ました。すぐ眼の前の道を一人の
金髪の少女が半ば首をかしげながら……私の窓を仰い
で通りすぎるのです……私は走つて窓を開けました……

音楽3 急に大きくなる。

和子 きれいな聲……すきとおつて……いつたいどの子
かしら……きつとフランスの少女だわ。

音楽3 歌聲ゆつくりと、F・O・

効果 階段を上る靴音。

藤井 お嬢さん、藤井です……荷物できましたか？

和子 藤井さん……あの子だれだか知つてる、

藤井 どの子です。

和子 ほら、あの子よ……金髪の、

藤井 栗の木の下の子？

和子 そうよ、あの道を歌いながら行く子、

藤井 こり、遠くちや分りませんね……それよりか……も
う汽車の時間ですよ。

和子 なに言つてるのよ。あの子を探すのが先決問題よ。

音楽1 急に、UP、急に、DOWN

女A 金髪の娘さんですつて、

和子 そうよ……たしか、この道を上つた所だと聞いたけ
ど……。

女A 上の澤の奥にある家かしら、でもあの子は金髪じゃ
なし……

和子 私の肩くらいの高さで……歌の好きな外國人の娘さん
なのよ。

女A 知りませんね……

和子 そう……どうも、ありがとう。

音楽1 急に、UP、急に、DOWN

効果 自轉車のベルの音。

男B (バスの聲) お早うございます。

和子 ああ、新聞やさんね……いまから？

男B へい。

和子 この上の澤にまだ家があるの？

男B ありますとも。

和子 どこを見ても雲ばかりなのに……。

男B この谷の上の方に五六軒と右の谷の奥の森に三軒と

……まだ、ずっと上にも五軒や六軒あります。

和子 そう。

男B じゃ、ごめんなすつて。

和子 ちよつと……みんな外國人ばかりなの？ 住んでる

人。

男B はてね……たいがいドイツ人か日本人ですつて。

和子 歌の上手な金髪の娘さんのいる家、知らない？

男B 娘さんはたくさんいますすがね……

和子 そり……

男B ごめんなすつて。

効果 自轉車の遠ざかつて行く音。和子が雪を踏ん

で行く靴音。

和子 ひどい雪、こんな下の方に家があるのかしら……

効果 風の音、大きくなる。

おお寒む……ひどい風になつて來たわ。

音楽4 吹雪の音に混つて高いソプラノ聲で、メン

デルスゾーンの春の歌が遠くから聞える。

ああ(叫ぶ)あの子だ、あの子の聲だわ。

音楽 チエレスタ。

……吹雪の中の美しい春の歌を聞いたとき、私は思
わず丘の上に駆け上つていました……風にオーバの裾
を取られながら、この世ならぬ歌聲のとりこになつて
しまいました……やがて吹雪は止み、青い空が見えは
じめました……。

効果 小鳥の啼き聲。

モミの木の枝に名も知らぬ小鳥が啼き出しました。

……いままでの吹雪はまるで嘘のようです……私は丘の上から松林の奥をながめました……すると三軒ばかりの家が雪に埋もれて、そのうちの二軒の家から煙がもくもくと立ちのぼっているのが見えました……歌聲は、はたと止んで静かな雪の林に一匹の大きな犬が出て来て、私を睨みながら吠えました。

効果

(マイク・オフ) 犬の聲。

私は、谷をへだてた向うの家に行ける道を探しましたが、どこにも道らしい道はなく、そのうちまた空がかげつて来たので、家に引き歸しました……その翌日の朝……

音楽 1 急に、UP、急に、DOWN……B・G・

女の子A お姉さん、お姉さん、歌をうたつて頂戴。

女の子B この間の歌がいいわ。

男の子A ばらの歌。

女の子A そうよ、ばらの花の歌。

和子 アンナにマリエッタにルビイちゃんにミジェット……

……お早う。

子供たち お早う。

和子 いまはね、私、急がしいのよ。

子供たち お仕事？

和子 そう、お仕事があるの。

女の子A 意地悪ね。

女の子B あら、そんなこと言うものじゃないわ。

女の子A だつて、意地悪よ。

男の子A うん……じゃ、いいや、マリイに歌つてもらおうよ。

うよ。

女の子A ああ、マリイがいいわ、さあみんなでマリイの

家に行つて、テツシエに歌つてもらわない？

子供たち やあい、お姉さんの意地悪。

和子 アンナ、ちよつと待つて。

女の子A なあに？

和子 アンナ、そのマリイつて、どこに住んでるの？

女の子A 山の上よ……谷のそばだわ。

和子 金髪なのね、脊が高く……

女の子A そうよ。

和子 じゃ、お姉さんも連れてつてよ。早く……

女の子A お姉さんも歌つてくれる？

和子 ええ、歌つてあげるわ、いくらでも。

子供達 本當？ じゃみんなで行こう、行こう、行こう、

(などと口々に言う聲、急げきに、F・O・)

効果 雪を踏む數人の足音。

音樂 遠くかすかにウエルナーの野ばらの歌きこえ

はじめ、次第に大きくなる。

女の子A マリイ……マリイ……

女の子B テツシエ……テツシエ……

効果 風の音。遠くで小鳥の聲。犬の啼き聲、近ず

く。

女の子達 (聲をそろえて) マリイ姉ちゃん。

効果 歌聲やむ。窓の開く音。

マリイ (オフ・マイク) アンナ、いま降りて行くわ。

子供達 歌をきかせてね……お客様も来たわよ……

効果 戸の開く音。靴音。犬の啼き聲。

マリイ ジョンだめよ、ふざけちゃ。

子供たち お早う、マリイ。

マリイ お早う……あら。

女の子A マリイ。この小母さんも来たのよ。テツシエの

歌を聞きに……

和子 今日は、

マリイ 今日は、

和子 あなたの歌……聞いたわ、この間。

マリイ まあ。

和子 野ばらを歌いながら、私の家の前を通つて行つたで

しょう? ミルク瓶を下げて……。

マリイ ええ。

和子 だから私ずいぶん、探したのよ。あなたのお家。

女の子A さあ、マリイ早くよ……ピアノを弾いて頂戴。

祖父 (年老いたバスの聲) マリイ、マリイ、だれだい?

マリイ はい、アンナたちが遊びに来たの。

祖父 そうかい、大勢みえたようだね。

和子 こんには。

祖父 やあお出でなさい……さあ、アンナたち、みんなお

はいり、今日は寒いよ。さああんたもどうぞ。

和子 ごめん下さい。

効果 床を踏むたくさんの靴音。

祖父 さあ、さあ、ストウヴのそばにおいでなさい。

和子 突然、おじやまにさがりまして。

祖父 よく来て下さいました。マリイ、テツシエは？

マリイ お二階よ。

祖父 降りてくるように言いなさい……孫は二人とも音楽が好きでしてね……

和子 私……この町へ去年から住んでいますの……長澤和子と申します。

祖父 長澤和子さん。

和子 私も音楽の方の仕事を、すこししているものですから。

祖父 そうですか……ピアノもありますからどうぞ、遠慮なく遊びに来て下さい。

子供たち (マイク・オフ) テツシエ、なにか歌つてよ……

……(子供たちの、がやがや言う聲近すぎ、急に、C U T・O U T・)

音楽 1 F・I・—B・G・

和子 ……その時私は思わず、あつと聲を立てるところでした。テツシエという男の子、それがマリイの弟なのですが……目が見えないのです。それでいて盲の人によくあるようにいじけた影がすこしもなく静かな暖か

い空氣がただよつていたのでした……お祖父さんの話では、この孫二人のお父さんはフランス人で、お母さんはお祖父さんの娘さんの日本人……早くなくなつて、テツシエは眼が見えないまま、静かにこの山の奥の林の中で育てられたとのことでした……。

音楽 6 メンデルスゾーン作曲「歌の翼に」、F・

I・……B・G・

私たちの願いのままに、マリイはやがてピアノに向つて「メンデルスゾーンの歌の翼に」を伴奏しテツシエが歌つてくれました……ああ、私は、あなたにその歌聲を聞かせたい……すばらしいボオイ・ソプラノです。世界でこれほど美しいソプラノはないでしょう。

音楽 6 F・O・

それで私は、作曲の完成したばかりの落葉松の歌をうたつて聞かせて……その歌をテツシエに覚えてもらいました……一度歌つただけなのに……テツシエはすぐに美しい聲で歌うのでした。

音楽 7 落葉松の歌、F・I・—U P—F・O・

それから、私たちはすっかり仲好しになつて……ある日マリイと私とテツシエの三人で、雪の浅い丘の上に登つたことがあります。

音楽 I F・I・

効果 木を折りながら山道を登る足音。

和子 まあ、すばらしいわ。

マリイ きれいな山ね。

和子 ほら、あんなところに小鳥が……

効果 小鳥の聲。

マリイ テツシエ、青い羽をした鳥よ。

テツシエ うん、かわいい聲だね。

和子 ハケ岳が見えるわ……ああ、いい氣持……ねえ、マリイ、私、お願いがあるの。

マリイ なんでしょう？

和子 ねえ、テツシエを連れて、私たち東京へ行かない……東京へ行つてテツシエの歌をみんなに聞かしてあげるの。

マリイ でも……

和子 お祖父さんには、私から、よく話をするわ。私のお

友達の本眞喜子さんがレコード會社の人たちをよく知つてゐるし……それにあんなすばらしい聲ですもの……ポオイッシュソブラノは早く録音しておかないとすぐ聲が變つてしまうでしょう……だから……。

マリイ だつて、テツシエが……。

和子 大丈夫よ。

マリイ 一度も生れてから、あの子を傷つけるような目に逢わせなかつたのよ。もしも……

和子 私がついてゐるのよ……それは私と山本さんにまかせてよ。ね、お願い。ねえ一緒に行きましょう。東京へ……。

効果 汽車の汽笛（マイク・オフ）

ほら、あの汽車に乗れば五時間で東京なのよ……そこには、テツシエのファンが山のように待つてゐるわ。

音楽 ハモンド・オルガンでコード。

効果 戸を開ける音。

郵便配達夫 山本さん、電報！ 山本眞喜子さん……